

学校評議員会の実施報告書

学校名	郡上特別支援学校		
	学校長	山内 明志	
	所在地	<大和校舎>郡上市大和町栗巣 3 2 - 1	電話 0575-88-3020
		<那比校舎>郡上市八幡町那比 3 0 6 8	電話 0575-63-0020

- 1 会議の名称 第1回 学校評議員会
- 2 会議の構成
- | | | | | | |
|--|-----|-------|--------|------|------------|
| | 委員 | 上野 幸子 | 地域住民代表 | | |
| | | 中山 栄文 | 地域住民代表 | | |
| | | 野田 真一 | 地域住民代表 | | |
| | | 野田 美鈴 | ぶなの木学園 | 園長 | |
| | | 水野 正文 | 企業関係 | | (委員名は五十音順) |
| | 学校側 | 山内 明志 | 校長 | | |
| | | 山岸 孝樹 | 事務長 | | |
| | | 高山 務 | 小中学部教頭 | | |
| | | 大前 裕子 | 高等部教頭 | (司会) | |
| | | 山内 康弘 | 小中学部主事 | | |
| | | 石樽 淳 | 高等部主事 | (記録) | |
| | | 遠藤 衣代 | 教務主任 | | |
- 3 会議の目的
教育活動や学校運営等について、地域住民や関係機関等から幅広く意見を求め充実した教育活動を展開するとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成29年6月21日(水) 13:30~16:00
郡上特別支援学校(那比校舎) 那比公民館 会議室
出席者数: 委員5名、学校側7名

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

今年度の児童生徒数は、小中学部が17名、高等部が20名の37名でスタートした。昨年度に比べると2名増えている。2年ぶりに小学部1年生が2名入学し、高等部1年生は10名入学したことで少し雰囲気は違ってきている。人数が増えたとはいえ少人数なので、少人数のメリットを生かした教育は継続しつつ、デメリットの部分は、地域に出かけていったり積極的に他の学校と交流したりして社会性を育てていきたい。教員は、大学を卒業した新卒が5名入り、その他にも若い教員が多い。若い力を期待しつつも専門性の向上を含めて若手教員の指導・育成が大切なことと感じている。

県内の特別支援学校の動向として、岐阜清流高等特別支援学校がこの4月に開校した。高等部だけの障がい軽度の生徒を対象とした学校であり、入試においては選抜となる。これと同じような学校が来年4月に大垣市に開校する予定である。各圏域に高等特別支援学校ができてくるが、郡上市は、来年度から岐阜清流高等特別支援学校に入学可能な区域になった。障がいのある子どもの選択肢が広まったことはよいことだと思われる。私たちが当校の児童生徒をどう育てていくかということについては、今まで以上に考えていかなければならないと考えている。学校評議員の皆様にはいろいろなところでご指導、ご助言、ご意見をいただくことがあると思われるがよろしくお願ひしたい。

(2) 委嘱状交付 自己紹介

- (3) 高等部音楽授業参観
- (4) 学校概要・各部の活動について
 - <小中学部> 「めざす姿」と各授業での様子について
 - <高等部> 「進路指導」に視点をあてた学習の様子について
- (5) 全体会議
 - ア 高等部作業学習製品の販売価格について
 - 縫製班 トートバック(700円) 調理班 プチプリン(35円)
 - 木材工芸班 ミニウエルカムボード(500円) ゴミスタンド(600円)

※ 全て承認された。

- 意見1 ゴミスタンドの横の紐は、木で折りたためるようにしてはどうか。大量にゴミが入った場合のことを考えて、低くした方がよいと思う。トートバックは保冷ができるものもよい。
- 意見2 何を作るか考える中で、使い勝手の良い物、しっかりした物、デザイン的によい物を作れるとよい。このゴミスタンドは、個人的に欲しいと思うし金額的にはよい。もう少し手が加わっているとよい。
- 意見2 どれも価格は妥当 木工の製品は売れるかどうかはわからないが手間がかかっている。トートバックは他の福祉施設のものからみると少し高い印象はある。
- 意見3 昨年度は販売してもよいかと思う物であったが、今年度の物は販売してよいレベルだ。生徒の力で作ることができて、買ってもらえる物でなくてはならない。学校で作っている製品に特長があって有名になり、その製品が郡上特別支援学校の生徒が作っていると多くの人に知っていただくことでその生徒の就職先につながると思う。
- 意見4 卒業後事業所に来る人に何をやらしてもらおうか考えるが難しいことがある。学校でやっていることを事業所が引き継ぐことができるとよいと考える。

イ 教育活動全般について

- 意見1 音楽の授業を見せていただいてよかった。リズムのとれる子はリズムをとり、歌える子は歌い、物づくりの場面とは違う子供たちの潜在的な能力を引き出していた。
作業製品については、原価から売価の算出における利益率をどういう根拠で算定しているかが分かりにくい。原価は細かく計算されているが売価は安易な印象がある。
卒業生を受け入れているが、問題が生じている。アドバイスをお願いしたい。
- 意見2 音楽の授業は、障がいの程度、種類の違う人がいて大変だと感じたが、教師が個別指導を丁寧に行っていることがよく分かった。
- 意見3 卒業後の就労に向けて個別に丁寧な指導で子どもの力を積み上げていることがよく分かった。運動会や学校祭に来ると、会場全体が人が人を思いやる気持ちであふれていると感じてすごと思った。企業や事業所のご苦労も分かったが、生徒たちも頑張り、社会もその子たちの場を作るよう頑張り、お互いに歩み寄ることが大切だと思う。
- 意見4 音楽の授業はよいと思った。また、物づくりの楽しさを味わって、将来こういうところに進みたいと希望がもてるような教育がされるとよい。素晴らしい先生方が教育に携わっていると思う。
- 意見5 数年前スクールバスの添乗員をしていたが、バスの中でのいろいろな出来事に対してミーティングを開き情報を共有し、自主勉強をするようにしていた。私たちは子供たちにとって社会に出る前に最初に接する社会人かもしれないので、理解を深めていきながら接していこうと話した。そして子供のことをある程度は理解したのだからそれを社会に伝えていこうと話した。
障がいの軽い人は、一見障がいがないように見えるので障がい者枠で企業に入ったり、A型で働いたりするとぶつかる問題が多くある。それは、本人の問題もあるが、受け入れる側の問題もかなり大きいのではないと思う。社会で理解されていくことはとても難しい。
生徒は本当に良い子たちばかりなので、なんとか社会の一員としてやっていけたらと思う。

6 会議のまとめ

- ・障がいの程度や状態がさまざまな児童生徒に対して一人一人に応じた教育をし卒業後社会に送り出しているが、それで終わりではない。
もちろん進路先につないではいるが、それだけでなく学校として関わるべきところがある。
- ・教員は、経験年数がさまざまであるが、若い教員が多く、現場で経験を積み重ねて専門性を高めている。現状に甘えることなく更に研究・研修をしていかなくてはならない。
- ・評議員の皆様からいただいたご意見は、各校舎の職員会議や研修等で伝えていく。